

言語活動の充実に関する実践事例

学校名 (府中市立旭小学校)

- ① 教科等 算数科 ② 学年 第5学年
- ③ 単元名 図形の面積
- ④ 本時の目標 三角形の面積の求め方を考える。
- ⑤ 学習の流れ (5時間目/全15時間)

【言語活動の充実】

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 (評価方法)
1 問題を知り、学習課題を設定する。	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ面積の三角形を提示し、どれが広いか予想させることで、学習への意欲を高める。 ・平行四辺形の面積を求めたことを想起させ、変形することや既習の面積の公式を使うという見通しをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平行四辺形や長方形に等積変形や倍積変形して、三角形の面積の求め方を考えている。〔数学的な考え方〕 (ノート)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 三角形の面積を求めるには、どのようにしたらよいだろうか。 </div>		
2 三角形の面積の求め方を考える。(自力解決)	<ul style="list-style-type: none"> ・実物大の三角形を長方形の外枠があるものを用いて、操作させることで、初めて出会う倍積変形の考え方など、色々な考え方が出るようにする。 ・見通しをもちにくい児童には、三角形に補助線を入れたヒントカードで平行四辺形に変形することに気付かせる。 ・自分の考えを、図に矢印や書き込みをしたり、3段論法を使ったりして、操作の過程が分かるように、言葉、数、式、図で説明させる。 	
3 三角形の面積の求め方を話し合う。(集団思考)	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアトークや集団思考では、掲示用の三角形を用いて、3段論法を使いながら、操作や考えの過程が分かるように表現させる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【説明の例】</p> <p>まず、同じ三角形をもう一つ合わせて平行四辺形にします。次に、平行四辺形の面積を「底辺×高さ」で求めます。平行四辺形は三角形2つ分の面積なので、最後に2で割ると、三角形の面積が求められます。</p> </div>		
4 学習のまとめをし、適用題を解く。	<ul style="list-style-type: none"> ・全体での練り上げでは、考え方に共通することを聞くことで、既習の図形の公式を使って解くよさを感じさせる。 	
5 学習の振り返りを書く。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習課題に即したまとめをさせる。 ・倍積変形の考え方で適用題をさせ、次時の公式づくりの学習につなげる。 ・分かったこと、考えが変わったこと、次に学習したい事などを書かせることで、学びの実感をもたせる。 	

設定した言語活動を通して育てたい力

- 既習の面積の求め方を基にして、三角形の面積の求め方を言葉、数、式、図を用いて考え、説明することができる。

言語活動の充実のための指導の工夫

- 色々な考え方を出させるために、実物大の三角形(外枠があるものとなないもの)を用意して、操作しながら考えさせる。
- 自分の考えや操作の過程が分かるように、言葉、数、式、図を有効に活用させる。